

令和2年度生徒指導集中対策、生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校  
「指定校における取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長	沖 章生	担当者名	東 英治
-----	------------	----	------	------	------

**取組事例名** 『情報共有と共通理解による児童の居場所づくり』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

**取組における育てたい資質・能力**

○やり切る力

**取組のねらい**

- 不登校・不登校傾向の児童をはじめ、学習集団になじめない児童が、学校とのつながりを途切れさせないようにするため、校内に居場所（サポートルーム）をつくる。
- 児童の状況について教職員間で情報共有し、不登校等の理由に応じた働きかけを行う。

**取組の具体的内容**

**取組の創意工夫**

- 毎朝、担任は健康観察簿と欠席者連絡カードを提出する。生徒指導担当は、欠席連絡カードをもとに、児童の遅刻・欠席等の状況を素早く把握し、電話連絡や家庭訪問を行う。  
(欠席や遅刻等の理由も記入している。)



- 児童の状況により、担任、養護教諭、学校ふれあい相談員、日本語教室担当教員、生徒指導担当者等、複数の教職員で家庭訪問を行い、本人の顔を見て「待っている」ことを伝える。

- 児童の様子について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携する。



- 教室に位置付くことが難しい児童のために、サポートルームを設置し、学習する場を設けている。

- 児童の欠席や遅刻等の状況を把握するため、職員室のホワイトボードに、次のように色分けして見て分かるように工夫している。

- ・黒→欠席
- ・青→遅刻（登校後は赤丸をする）
- ・赤→出席停止，特別欠席

- 週に3日欠席した場合には、必ず家庭訪問を行っている。  
(児童の状況により、放課後、担任が家庭訪問し連絡帳を届ける場合もある。)

- スクールカウンセラーを講師に、児童理解について校内研修を2度実施し、指導に生かしている。

- 担任、生徒指導担当、学校ふれあい相談員等が対応している。

**取組の成果と課題**

- 欠席者連絡カードに欠席や遅刻の理由を記入することで、連絡がない児童宅へ電話連絡し、本人の状況を確認することで、登校を促す取組になっている。
- 複数の教職員で家庭訪問し、児童に「心配していること」「待っていること」のメッセージを伝えることで、「遅れてでも登校しよう」「明日は登校しよう」と前向きな気持ちにつながっている。
- 関係機関と連携し、場合によっては教育相談等につなげることができる。
- サポートルームの設置や学校ふれあい相談員の配置により、昨年度、132日欠席し不登校だった児童が、今年度の欠席日数は1月末の段階で31日である。1時間程度ではあるものの、児童が登校してみようという気持ちにつながっている。
- 学習面に係る支援内容を充実させ、サポートルームの活動を通して力をつけていくことが、今後の課題である。